技術・家庭科（家庭分野）指導案

摂津市立第四中学校

指導者　Ｔ１教科担任

Ｔ２臨時技師

1. 日　時 令和３年１１月１８日（木）第４時限
2. 対　象 ２年３組　３１名
3. 場　所 ２年３組教室
4. 単元名 ２章　住生活と自立（教科書：東京書籍）
5. 単元の目標

* 住まいの役割と家族との関わりについて理解する。【知識・技能】
* 住まいの中の危険な場所について、事故防止の対策を考えることができる。【思考・判断・表現】
* 地域の災害リスクを確認し、備えができる。【知識・技能】
* 快適な室内環境を整え、自分や家族にとって心地よい住まい方の工夫を考えることができる。【思考・判断・表現】

1. 単元について

２０１８年６月１８日の大阪府北部地震で生徒たちは生まれて初めて大きな地震を体験した。その後も日本各地において自然災害が断続的に続いている。いつ起こるかわからない災害に対し、自分の身は自分で守る力を身につけておく必要がある。災害の備えとしては、自分や家族の命を守る「自助」、地域で助け合う「共助」、自治体の支援「公助」の３つがあるが、生徒には「自助」「共助」について自ら考え行動できる力を身につけさせたい。本単元では防災教育において食の視点からアプローチし、備蓄品に対する基礎的な知識を身につけること、店頭から食品が無くなる状況に陥っても落ち着いて対処できる能力と実践的な態度を育てることを目的にこの題材を設定した。

食育の指導の充実が求められるなか栄養職員とティームティーチングで授業をおこない、ICTの活用により生徒の意欲を高め、積極的な交流を通して備蓄品に対する基本的な知識の獲得を目指したい。また、災害時でも健康を保つことの大切さを確認させることはもとより、非常時に備えた食が特別なものではなく、日常の食生活の延長線上にあるという意識をもたせ、防災の視点から食生活をより身近に考えられる態度・意欲を育てたい。

1. 単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 住空間における事故や問題に対し、解決策を見つけることができる。 | ①健康で心地よい住まい方の工夫ができる。  ②災害に備えた住環境について考えることができる。 | ①家族が心地よく過ごせる住空間を考えようとしている。  ②災害時の食の課題を見つけ、家庭に合った備蓄品を考えようとしている。 |

1. 食に関する指導の観点

* 食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。（食事の重要性）
* 心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事の取り方を理解し、自ら管理していく能力を身につける。（心身の健康）
* 正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性などについて自ら判断できる能力を身につける。（食品を選択する能力）

1. 指導と評価の計画（全５時間）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | おもな学習活動 | 評価規準 |
| １ | 住まいの役割を考える。  日本の住まいや住まい方を調べる。 | 【主①】家族が心地よく過ごせる住空間をつくろうとしている。  【知・技】日本の住まいや住まい方の違いを調べ、特徴を挙げることができる。 |
| ２ | 住まいの安全について考える。 | 【知・技】家庭内事故の防止策を考えることができる。 |
| ３（本時） | 自分の住んでいる地域の災害を知り、災害時の食生活に関心をもつ。  自分の家庭に合った備えができる。 | 【主②】災害時の食生活の課題を考えようとしている。  【知・技】備蓄に適した食品を選ぶことができる。  【思・判・表②】自分の家庭に合った備えを考えることができる。 |
| ４ | 健康で快適な室内環境を工夫する。 | 【知・技】室内空気の汚れや騒音への対策を理解する。  【思・判・表①】健康で心地よい住まい方の工夫ができる。 |
| ５ | よりよい住生活について考える。 | 【思・判・表①】自分や家族にとって心地よく、環境に配慮した住まい方の工夫を考えることができる。 |

1. 本時の目標

災害時の食の問題を知り、自分の家庭に合った備えができる。

1. 本時の評価規準

・災害時の食生活の課題を考えようとしている。【主②】

・備蓄に適した食品を選ぶことができる。【知・技】

・自分の家庭に合った備えを考えることができる。【思・判・表②】

1. 本時の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 学習内容と活動 | 指導上の留意点  〇Ｔ１：教科担当  ●Ｔ２：臨時技師 | 評価方法 |
| 導入 | 日本の災害を知る  地域の災害の被害予想を知る  本時のめあてを知る | 〇「重ねるハザードマップ」を用いて、河川氾濫による洪水の危険性があることを確認させる  〈本時の目標〉災害時の食の問題を知り、自分の家庭に合った備えができる | 情報から地域に起こりうる災害について読み取ることができる【知・技】 |
| 展開 | 想定される食の課題を知る  震災の被災者が体験した食に関する問題点を知る  備蓄品に必要な条件「保存がきくもの・おいしいもの・栄養があるもの」を知る  自分の家庭に合った備蓄品を考える  「ローリングストック法」について知る | 〇被災者の意見から問題点を見つけ、自分事として問題意識をもたせる  ●水の必要な備蓄量を確認させる  ●備蓄品として適当なものを考えさせる  ●備蓄品を使ってパッククッキングができることを伝える  〇レポートに記入させる | 災害時の食の課題を見つけようとしている【主②】  備蓄に適した食品を選択することができる【知・技】 |
| まとめ | 本時のまとめをおこなう  宿題の内容を確認する | 〇本時の目標を確認して振り返りをさせる  〇日常の備えについて家族と話し合いをおこなわせる | 災害時の食の課題を見つけ、家庭に合った備蓄品を考えようとしている【主②】 |